

苫小牧地区交流会の報告

運営委員 澤口 勇治

7月22日(土曜日) 苫小牧保健所様並びに苫小牧青葉病院様のご協力のもと二年ぶりに第2回苫小牧地区交流会が開催されました。

会場は、前回同様苫小牧青葉病院で、遠くは伊達市から参加された患者様始め25名ほどの参加がありました。

青葉病院には神経難病病棟があり、師長さん始め多くのスタッフの皆さんが参加され、真剣な眼差しで講師の話に耳を傾けていたのが、印象的でした。

今回の講演テーマは「コミュニケーションについて」ということで、icare ほっかいどうの佐藤さんに講師をお願いし、「icare ほっかいどうの日頃の活動報告と最新の意思伝達装置について」お話しをしていただきました。そして後半には口文字を理解してもらうため、北海道支部深瀬支部長と佐藤さんに対談していただき、初めて口文字に触れた方は、深瀬支部長の口文字の速さに驚き関心されていました。

また、各種コミュニケーション機器を会場内に展示しており、その中でも視線入力機器には大変興味をもっていた方が多くおいでになりました。

交流会では、質疑時間が短い中、患者さんから現在の症状についてお話しいただきました。伊達から参加の患者さんは、「地元にはこのような会合がなく、今回は色々勉強させていただきました」とお話しされていました。

また、最近、大雨による災害が多く発生しており、災害時には電源が使えなくなることも考えて、普段から透明文字盤や口文字の練習も大切であることや、そして、なによりもコミュニケーションの基本は、コミュニケーション機器以外に、日頃より最低限、はい！いいえ！の合図だけは患者と介護者の中でお互い決めて常に意思疎通を図れるようにしておいた方がいいとアドバイスがありました。

今回の交流会は、苫小牧保健所様、苫小牧青葉病院様及び icare ほっかいどう様のご協力のもと開催出来、無事終わりましたこと深くお礼申し上げます。